

# Vistas

KOBE COLLEGE  
NEWS LETTER

“Beauty Becomes a College”



# 27

2015・June

Published by KOBE COLLEGE

神戸女学院大学

## 〈学長対談〉齊藤言子(神戸女学院大学 新学長) 飯謙 (神戸女学院大学 前学長)

# 神戸女学院大学の 未来に向けて

―受け継がれるリベラルアーツ教育―

自然と共生し、生物の多様性を守る ― 5  
節足動物の生息状況から見てくる自然環境  
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 遠藤 知二 教授

安全を最優先する企業風土を築く ― 9  
西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 安全研究所  
ヒューマンファクター研究室 研究員 堀下 智子 さん

●リベラルアーツ&サイエンス・プログラム  
専門分野の垣根を越え、複数領域の学びを得る ― 11

●キャリア教育科目改編  
「今」と「これから」を見据え、人生の基盤を築く ― 13

●English Honors Program  
世界に通用する英語運用能力を養う ― 15

●授業・生活ともに日本人パティがサポート  
米英・新規協定校から初の留学生 ― 17

松岡享子氏に名誉学位記を授与 ― 18

KCインフォメーション ― 19

●新旧学長に聞く

# 神戸女学院大学の 未来に向けて

受け継がれるリベラルアーツ教育

●神戸女学院大学 新学長  
齊藤 言子 SATO Kotoko

●神戸女学院大学 前学長  
飯 謙 II Ken



2015年3月、飯謙学長の2期・6年間にわたる任期が満了し、神戸女学院大学の卒業生であり音楽学部教授でもある齊藤言子先生にバトンが渡された。齊藤新学長の任期は2018年3月31日までの3年間で、卒業生の学長就任は2006年退任の原田学長以来9年ぶりのこととなる。学長交代にあたり、これまでの6年間に飯前学長が尽力した学内改革を振り返るとともに、後を引き継ぐ齊藤新学長の現在の想いや決意、これからの神戸女学院大学の在り方などについて語り合う。

●神戸女学院大学の礎を築く

**齊藤新学長** 飯先生は就任されてからの6年間で、神戸女学院大学のミッションステートメントに加え、アドミッシヨン、アカデミック、ディプロマの3ポリシーを公表し、英語教育の改革を進めるとともに、リベラルアーツ教育を再考・拡幅して本学の土台を作ってくださいました。振り返ってみて、どのような6年間でしたか？

**飯前学長** 本当にあつという間でした。1期目は、着任してすぐに文部科学省の中央教育審議会から学士の質保証などが求められ、ミッションステートメント&3ポリシーを策定しました。当初、情報公開や質保証体制の構築にエネルギーを注ぐことに疑念も覚えまし

た。しかし、かつて阪神・淡路大震災が発生した際、家の再建に苦悩されている方が大勢いる中で大学は公的な助成を受け、神戸女学院大学も最小限の空白で本来の教育を再開することが出来たと思ひ返しました。「大学は公器であり、教育について受験生や社会へ明らかにすることは責務だ」と考え、この課題にも真摯に向かい合いました。**齊藤** 2期目はそれらの実質化を目指されましたね。

**飯** そうですね。1つ目に、新カリキュラムによる英語教育の開始。2つ目に、専攻分野以外の領域の学修を可能とするリベラルアーツ&サイエンスプログラムの開始。3つ目に、図書館にラーニングコモンズを開設し、自発的学修の環境を整備するという3本の柱を立てて改革を進めました。多くの方々のお力添えを頂き、ある程度の道筋を付けることが出来たように思います。齊藤先生は学長に就任され、どのようなお気持ちですか？

**齊藤** 私は長く音楽・オペラの世界でやってきましたので、就任が決まった時は大舞台に立つ前のような張りつめた緊張感でいっぱいでした。もちろん、覚悟を持って上った舞台です。舞台も学校運営も周囲にサポートして下さる方が大勢いらつしやり、異なる考えも協議することが出来るということ。それを大変心強く思っています。

**飯** 齊藤先生は芸術家でいらつしやいますから、己に厳しく、妥協してはいけないと思われることも多くおありか

と思います。しかし、皆で知恵を出し合える雰囲気とサイズが本学の強みです。民主的に意志決定をして物事を進めるといふ学風もある。ご自身もその中で育って来られましたから、ご自分のカラーを出せばいいと思います。**齊藤** 舞台は瞬間芸術なので、一旦走り出したら何が起ころうとも最後までやり遂げなければなりません。大学運営は立ち止まって見直すことも大切であり、時には振り出しに戻り出直す勇氣も必要だと感じています。

●上質で良心的な改革を目指して

**齊藤** 飯先生はやり残したことや引き継がせたいことがおありでしょうか？  
**飯** 聖書には、よいものは世代を超え、何代もかけて作り上げられていく、という意味の言葉があります。これから齊藤先生に頑張ってもらって(笑)、リベラルアーツ教育をさらに深め、世界に対しても汎用性の高い大学として留學制度の充実や英語教育の強化など、国際化を邁進して欲しいです。わが国最古の女性の教育機関ということで、改めて女性のエンパワーメントも前面に打ち出して頂けたらと思います。

**齊藤** そうですね。リベラルアーツ教育のもと、学生の知的環境や、文化的教養などの総合力が深められる。上質で良心的な改革を目指したいと思います。リベラルアーツ&サイエンスプログラムのカリキュラムの幅も広がってきているので、学生は、より自由



KOBE COLLEGE  
Founded in 1875

リベラルアーツ教育のもと、学生の知的環境や、文化的教養などの総合力が深められる。上質で良心的な改革を目指したいと思います。



■斉藤言子(さいとう・ことこ)  
神戸女学院大学学長。神戸女学院大学音楽学部、同研究生修了後、ミラノ・ヴェルディ音楽院に学ぶ。1992～1993年、南カリフォルニア大学客員研究員。専攻は声楽。1999年より神戸女学院大学音楽学部教授。日本やイタリア、アメリカにて多くのオペラに主演し、数々の国際コンクールで上位入賞を果たす。平成21年度和歌山市文化功労賞受章。関西二期会副理事長、日本演奏家連盟会員、各種コンクール審査員等を務める。

学部横断的に専攻外の分野とより活発に関わり、多彩な刺激を受けながら成長していくでしょう。

私は本学の音楽学部出身ですが、在学中は微積分や遺伝学の勉強もしました。それが直接何の役に立ったかというよりも、「私は音楽だけの人間ではない」というよい意味でのプライドと、他分野にも一生懸命取り組んだことで、自分の中で色違いの引き出しが増えました。様々な引き出しが増えるということは、人生においての選択肢も増えるということ。社会へ出るための色々な養分をたくさん与えて貰ったのです。花を咲かせるのは卒業後、ひとり一人どんな花に咲くかはわからない。しかし、そこにもリベラルアーツ教育の意味があるのだと思います。

飯 その通りだと思います。他分野を学修することで啓発される。啓発も重要だと思います。

●変わるべきもの、変わらざるもの

飯 神戸女学院の根底にある愛神愛隣、そして女子教育、少人数制、キリスト教主義、リベラルアーツ教育、国際理解の5つをぶらすことなくフリーハンドで議論し、改革していく姿勢が大切だと思いますが、いかがでしょうか？

斉藤 時代の変化に応じた歩みの必要性は感じています。皆さんのご意見を聞きながら、よいことは積極的に進め、スピーディに発信していかねばと思っています。流行に乗るのではなく神戸女学院大学でしか成し得ない教育を検討し、前向きに改革を進めていかなければならないと、全学でその気運は高まっています。

。相互に意識が啓かれていくのです。就職難の時代にありながら、本学は就職率が高いと好評価を戴いています。それはもちろん喜ばしいことですが、就職だけが人生だと思わず、胸を張って別の人生へ飛び出す学生も大勢います。神戸女学院の学生が多様な生き方を選択できる力を備えているのは、伝統の賜物だと思います。

斉藤 本学に、本学の卒業生は様々な場で活躍していますね。キャリアという就職先で測られがちですが、女性のキャリアは地域やご近所、PTA、家族と、社会との関わりの中で積み重ねられている経験の全て。取り巻く環境、状況は折々に変化しますから、その都度自分を見失わず、きちんと判断し対応する力を養うことが大切だと思います。

その一方で、守るべきものはきちんと守る。例えば、学舎を含めた岡田山の環境。精神的なことも含め、私が学生時代に授業を受けた教室の雰囲気や音の響き、チャペルの身の引き締まる匂いなどは、今も変わっていません。そして、正門を潜ると一変する空気感も昔のままです。人が移り変わっても変わらないものがあるというのは、素晴らしいことです。

飯 本学はオープンキャンパスに訪れた人の志願率が高い。それは、やはりこのキャンパスの空気のおかげだと思います。キャンパスの在り方に共感し維持してきた方々がいらっしゃり、自然が方向付けてくれた部分もあります。キシノウエトタテグモというクモの生息場所を守るため、学舎の設計を変更したという経緯もあるくらいですから、

彼女達はオペラ、アンサンブル、オーケストラ、舞台のパフォーマンスなど、共同の芸術を経験しているため、コミュニケーション能力が高く、また師弟関係の中での厳しい指導や注意されることにも慣れており、少々のことではへこたれません。演奏と演技にはテクニックだけではなく、忍耐力や集中力は勿論のこと、健康に配慮し、心身のコントロールも必要です。卒業後、音楽の仕事に就かなくても、それらは社会で役立つ大きな力です。実際、就職先の一般企業の方からも、その人間力を感じると伺っています。そして、専門に加え、本学のリベラルアーツ教育で身に付けた総合力が高い評価を得ているのだと確信しています。

飯 名を残すことも大切ですが、それだけが唯一の生き方ではなく、違う見方があることを示せるのが真の教育で

メンバーの意見を丁寧に聞いて改めて協議し、大切だと思う選択をする。これは大変な決断の要ることであり、それが出来る大学だということを誇らしく思います。

それから、本学の全ての根本に「神と人」があります。日々の生活を通して知らず知らずのうちに神の存在、あるいは守られていることを、どこかで感じている。その中で、教職員、学生たち、皆が互いを認め、支え合っている学風は、神戸女学院の柱です。

飯 「人間は孤独であるけれど、孤立はさせない。傍らに立って声をかけ続ける」という長年のキリスト教主義の積み重ねがあるのです。そして、孤立を脱する方法は、自らが声をかける者となることだと学ぶ。学舎が人を育てる。それらのよい学風はさらに深められるよう努めましょう。

名を残すことも大切ですが、それだけが唯一の生き方ではなく、違う見方があることを示せるのが真の教育であり、真の教養だと思います。



■飯 謙(いまい・けん)  
神戸女学院大学学生部長。同志社大学神学部、同大学院、スイス・バーゼル大学神学部で学ぶ。専攻は旧約聖書学。博士(神学)。1983年に神戸女学院大学助手となり、講師、助教授を経て1995年文学部教授、2009年から2014年度まで学長を務める。著書に「聖書学の方法と諸問題」「旧約詩編の文献学的研究」「旧約聖書と様式史」「ヨブ記」ほか。



For the Future

# 自然と共生し、 生物の多様性を守る

● 節足動物の生息状況から見える自然環境

● 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科  
遠藤 知二 教授  
ENDO Tomoji

生物の多様性は本来、人間の生き生きとした豊かな暮らしを支える上でなくてはならないものである。しかし、人間活動は、目の前の利益を追求するあまり、その多様性を危機的な状況にまで減少させている。ある生物が絶滅に向かわないためには、どのような環境や資源が必要なのか？ また、他の生物とはどのように繋がっているのか？ 生物多様性の保全をはかるため、ハチヤクモなど、生物圏の中でも特に多様性の高い節足動物の研究を展開する遠藤知二先生に話を伺った。



## 自然と親しみ、研究の道へ

先生が動物生態学に興味を持たれたきっかけをお聞かせください。

実は子どもの頃は病弱で、あまり外で遊べないこともあって昆虫図鑑などを眺めるのが好きでした。いつか本物を見たいと思い、中学生になって元気になる、すぐに近所の山へ行きました。すると、図鑑に載っていたルリタテハという蝶々が目の前に現れた。嬉しくて、それから昆虫が好きになりました。街の周辺に自然がたくさんある兵庫豊岡市で育ったのがよかったのでしよう。高校生になると生物部に入り、授業が終わると自転車で近くのフィールドへ通いました。ちょうど1970年代の初めで、社会には自然保護の気運も芽生え、「アニマ」などの自然雑誌も出始めた頃です。ますますかきたてられて、大学で生態学の勉強をしようと思いました。

動物の中でも、ハチヤクモなどの節足動物を研究の主にされた理由は？



▲昆虫好きとなったきっかけの蝶「ルリタテハ」

最初、クモは嫌いだったんですけど（笑）。でも、昆虫やクモは身近にいて扱いやすく、飼育も含めた調査ができます。野鳥だと双眼鏡で観察する必要があります。僕は昔から、葉を一枚一枚くってギブチョウの卵が何個あるかなど、調べるのが大好きだったんです。

## 多様性の高い自然環境を守るために

先生が長年研究されている、兵庫県の河川流域における管住性ハチ類の生息状況調査とは？

僕が最初に職を得た「人と自然の博物館」で始めた研究の一つで、管住性ハチ類を生物指標として用いた兵庫県全域の環境評価です。何処にどんな種類の管住性ハチがいるのか？ また、多種類の管住性ハチが棲めるのはどのような環境か？ など、管住性ハチ類の分布状況や経年変化を約10年かけて調査しました。

流域に生息する昆虫の中で、管住性ハチ類に着目されたのはなぜでしょう。

管住性ハチ類とは、植物の茎や木材に開いた孔など、管状の閉鎖空間に巣をつくるカリバチやハナバチのことをいいます。その習性から、竹筒トラップという仕掛けにハチを誘引して巣をつくらせることで、容易に採集できるんです。また、管住性ハチ類は幼虫の餌としてさまざまな昆虫・クモや花粉を利用します。また、巣づくりには、泥やコケ、松ヤニなどいろいろな資源が必要です。天敵に寄生されることも

あるので、食物連鎖上で次の段階のデータも得られる。つまり、管住性ハチ類の多様性は、里山昆虫相の豊かさの指標となるばかりでなく、総合的にその地域の里山環境の自然度を表すと考えられます。そして、比較的簡単に広範囲のデータを集めることができるという、大きなメリットがあります。

兵庫県全域における調査には、相応な労力が必要だったのでは？

設置した竹筒トラップは全部で約400カ所。春に武庫川、加古川と、県内を流域単位に回って設置し、秋に回収して竹筒を割り、中にどんなハチが管巣しているのかを調べる。本当に大変でしたが、できたのは学生や共同研究者のおかげです。集めたデータが膨大なので、結果をまとめるのも大変です（笑）。

里山環境の自然を守るには、何が大切だとお考えですか。

最近「SATOYAMAイニシアティブ」といって、里山を人が手を加えた自然として再評価し、残そうとする動きがあります。それは大切なことですが、流域についての考察が抜けているという指摘もあります。下流域は、上流域から恩恵も受けられ、災害なども被るけれど、多くの人間は下流域にある都市住民ですが、たとえば上流域でシカが増えて森林が荒れ、災害の危険が増すといったことに無関心です。また、上流側で開発が進むと、ハチ類をはじめ多様な生物の生息場所として必要な環境の異質性も失われる可能性がある。下流域で自然を回復させようとするならば、そのソースとなる上流域の自然を守らなといけない。生物や物質の移動を



■ 兵庫県河川流域・竹筒トラップ調査地点

● 設置した竹筒トラップ



▲調査中に出会った豊かな里山



人間には制御出来ないからこそ自然なのであり、身近な自然から、その有難みだけでなく、ときには不快であることも肌で感じ、ある程度許容しなければ、共生はむずかしいのではないのでしょうか。



遠藤知二(えんどう・ともじ) 北海道大学農学部卒業。農学博士。ハチやクモなど陸上節足動物を対象に、生物多様性を保全するための基礎として、パッチから景観までさまざまなレベルの相互作用について生態学的な研究を行う。共著に『親子関係の進化生態学(北海道大学出版会)』、『糸の博物誌(海遊舎)』、共訳にドーキンス『延長された表現型(紀伊國屋書店)』など。『月刊たぐさんのふしぎ まちぼうけの生態学—アカオニグモと華むらの虫たち—(福音館書店)』という絵本の作者でもある。



そうですね、まずは前述の管住性ハチ類の調査やアリグモの研究など、今までたまっている研究成果をまとめなくてはなりません。また、岡田山や西宮の自然を残すための仕事もしていかなくてはと思っています。現代は、進化よりも変化の速度の方が速く、人間を含めて生物の方がついていけなくなっている。僕達の研究はどれも10年以上の歳月がかかっています。だからこそ見えてくるものがあり、その成果が次の世代へ繋がる、視点になると嬉しそうですね。

る若手がチームに加わり、名前が付き、整理もされてきました。それにとともに、どこにどんなクモがいたか、近くにどんなアリがいるのか、どのアリをモデルに擬態しているのかなど、次第に分かるようになってきました。余談ですが、僕の名前をとった「エンドウイ」というアリグモもいるんですよ(笑)。



▲東南アジアに数多く生息するアリ擬態グモ

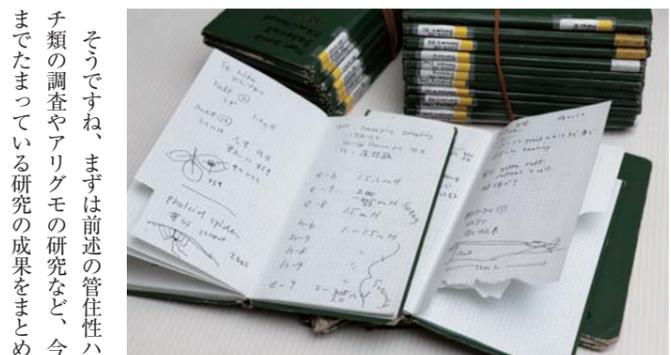


▼遠藤教授の名前がついたアリ擬態グモ「エンドウイ」

他の生物がアリに擬態すると、どのようなメリットがあるのでしょうか？ アリは、集団行動をし、蟻酸という毒をかけたたり、噛みついたり攻撃的なので、アリを嫌う生物は多いんです。特に熱帯では、同じ面積に棲むアリの重さを全部足すと全哺乳類よりも重いという位、アリは支配的な生き物であり、その周辺に住まわしてもらっていないのがアリ擬態の生物。アリ擬態グモは、アリを嫌う他のハエトリグモやカマキリなどから、アリに擬態して身を守っていると考えられています。

—この研究の目的は？— 熱帯で、多様な生物が共生できるのはなぜか？これは生態学の大きな問題です。熱帯には、マイノリティでも生きていけるといふ自然の懐の深さがあり、個体数の少ない種がたくさんいる。

アリ擬態グモはその典型です。モデルアリに対してどういう関係で、どういう場所に、どういうアリ擬態グモがいるのかを調べていくと、アリ擬態グモの棲める隙間(ニッチ)が見えてくるはずであり、少しずつそれが見えてきたところですよ。アリ擬態グモは、擬態のおかげでアリの周辺で活動でき、他のハエトリグモなどから逃れて、餌の豊かな環境に進出できたけれど、その一方でアリに擬態することで、他のハエトリグモのようにジャンプして餌を捕まえることが出来なくなってしまうのではないかと考えています。生物界にはそのようなトレードオフの現象が見られ、実はそれが多様性を生み出している大きな要素なのです。



▲海外研究の際のフィールドノート

自然に影響を与えながら、人間がどこまで譲歩して自然の仕組みを守って生きていけるかを考えていかねばなりませんね。授業で学生に「自然と人間」の関係について聞いてみると、大多数が「人間も自然の一部」と答えます。しかし、「自然と人工」の関係は、対立させて考えている。人間そのものとしての人間が作りだす「もの」についての認識のねじれにすら気づかず、「自然と人間の共生」は観念的に望ましいと考えている。でも、人間には制御出来ないからこそ自然なのであり、身近な自然から、その有難みだけでなく、ときには不快であることも肌で感じ、ある程度許容しなければ、共生はむずかしいのではないのでしょうか。



●竹筒トラップ設置作業の様子 ●竹筒トラップ断面、ハチの種類によって営巣様式が異なる

踏まえた「流域」というユニットへの考察が大切なのです。そう考えると、里山の自然を守るには、もつと都会の住人が長い目で貢献することが大事なのではないでしょうか。

—自然と人間の共生は、今後の大きな課題ですね。— 自然に影響を与えながら、人間がどこまで譲歩して自然の仕組みを守って生きていけるかを考えていかねばなりませんね。授業で学生に「自然と人間」の関係について聞いてみると、大多数が「人間も自然の一部」と答えます。しかし、「自然と人工」の関係は、対立させて考えている。人間そのものとしての人間が作りだす「もの」についての認識のねじれにすら気づかず、「自然と人間の共生」は観念的に望ましいと考えている。でも、人間には制御出来ないからこそ自然なのであり、身近な自然から、その有難みだけでなく、ときには不快であることも肌で感じ、ある程度許容しなければ、共生はむずかしいのではないのでしょうか。

卵を生んで餌を詰めこみ、コケで閉鎖するため、幼虫は大部屋で育ちます。クモやバッタを食べる肉食のハチは、2匹以上が一緒になると共食いをすると言われており、他のハチ類が個室制を維持していることを考えると、大部屋で育つのはよほど難しいはずですね。アルマンアナバチは大部屋制をとるのか？また、大部屋制がよいものであれば進化の過程で広がるはずなのに、そうならないのはなぜか？— 現在、大学院生と一緒に調べている

生物の多様性を生み出す要因とは —先生は日本での研究だけでなく、東南アジアでアリ擬態グモの研究もされていますね。— 僕がトタテグモをはじめ、もともとクモの調査をしていることもあり、「人と自然の博物館」で熱帯のアリを研究している方と、10年近く共同研究をしています。当初、分類もされておらず、ひたすらアリ擬態グモを集めました。数は少なく、どこにいるかもわからない。とにかく網であちこち植物を揺すり、採れたものを持ちかえって、拾いだします。一日やっって一匹も採れない日もざらでした。最近、ようやく分類学を進め



▲キシノウエトタテグモ

# 安全を最優先する企業風土を築く

—ヒューマンエラーを未然に防ぐ—

●西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)  
安全研究所 ヒューマンファクター研究室 研究員

堀下 智子 さん——HORISHITA Tomoko



私たちの家庭や職場や社会は、自分一人だけでは成立せず人と人、人とハードウェア、人とソフトウェア、人と環境といった周りの様々な事柄との関係から成り立っており、これらと人との関係で生じる様々な要因を「ヒューマンファクター」、これらの中で生じるエラーを「ヒューマンエラー」という。人間の心理・生理面の観点から、ヒューマンエラーによる事故防止を目指すJR西日本の堀下智子さんに話を伺った。

## ● 研究生から企業の研究員に

なぜ、人間は簡単に判断を間違えるのか？直感的な判断と、論理学や確率論に基づく解との間にずれが生じるのはなぜか？—神戸女学院大学で認知心理学のゼミに所属した堀下さんは、これらの解明に強く関心を抱くようになり、卒業後は研究者を目指して大阪大学の大学院へ進んだという。そして修士後、JR西日本が新しく設立する安全研究所における社員の募集という知らせが舞い込み、迷わず応募し採用が決まった。

## ● ヒューマンエラーの防止を目指す

堀下さんが所属する安全研究所 ヒューマンファクター研究室は、2005年に起こった福知山線列車事故を受けて設立された新組織。重大な事故を繰り返さないために、ヒューマンファクターの視点を中心に多角的な研究・調査を推進している。「私達の行動や考えは、どういうものに影響を受けて変わるのか？普段さちんと出来ている人が、100回に1回のエラーを起こすのは、やる気や気合いの問題ではなく何か環境に要因があるのではないか？—人間関係やコミュニケーションの在り方等、エラーの原因を探り防止策を講じます」。研究内容は「安全研究

専門分野だけに閉じこもらず、人の話を聞いたり聞いてもらったりする環境に置いて頂いた経験が、今、役に立っています。

■堀下智子(ほりした・ともこ) 1999年神戸女学院大学 人間科学部人間科学科人間行動科学専攻(現心理・行動科学科)卒業。2004年 大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程修了。博士(人間科学)。2006年に西日本旅客鉄道株式会社へ入社。安全研究所ヒューマンファクター研究室で、人間の心理・生理・集団特性を踏まえたヒューマンエラー防止策を提言している。



所レポート」という広報誌にまとめて各現場や職場に配布。年に1回開催される「安全研究成果発表会」でも発表し、ヒューマンファクターの観点をベースにした講義等も行っているという。

## ● 各職場における問題解決のために

入社して最初の1年間、堀下さんは社内教育用の冊子作りに取り組んだ。ヒューマンファクターの概念は、研究所内にもまだ浸透しておらず、全社員に知ってもらうための教材が必要だったのだ。「職場でこんなヒヤッとした経験はありませんか？それは人間がこういう仕組みになっているからです」と、心理学における様々な事象を鉄道の現場に置き換え、分かりやすく紹介して注意喚起を行う。例えば、記憶のエラー。まず、鉄道現場での事例をあげてから、人間の記憶には一度に覚えらるる量や覚えていられる時間の限界があるという事を解説し、反復や視聴覚を使った覚え方等の対策を提示する。「一つひとつは、知ってるよと思うような内容でも、職場としてそこに目を向



各職場における問題解決のために作成した社内教育用冊子「事例でわかるヒューマンファクター」

当初は専門用語を使ってしまい、堀下さんの文章は全く理解できないと言われました(笑)。難しい事象を分かりやすく紐解き、苦勞を重ねて作った冊子「事例でわかるヒューマンファクター」は、現在、社内だけでなく社外からも高く評価され、分けて欲しいという声も多く寄せられている。

## ● 大切なのは現場の声

堀下さんの現在の研究テーマは「上司・部下間での効果的な褒め方、叱り方」。仕事を円滑に行うために不可欠とされる良好な人間関係と継続的なコミュニケーションを現場へ浸透させることが目的だ。心理学の専門性も大切だが、駅の係員や運転士から生の声を拾わなければ研究は進まない。「振り返ると、神戸女学院大学のゼミでは、先生が他大学の研究会や研究テーマ外の学会へも参加を推奨し、たくさんの方と話を与えてくださった。専門分野だけに閉じこもらず、人の話を聞いたり聞いてもらったりする環境に置いて頂いた経験が今、役に立っています」。

## ● ヒューマンファクターのプロとして

痛ましい福知山線列車事故から今年でちょうど10年。その想いを尋ねると「私達に10年という区切りはありません。でも、何もなかったところから人間の特性や人間関係を見つめる事の大切さを学んできた10年です。足りない事はまだまだたくさんあり、そこに研



安全研究所 ヒューマンファクター研究室のミーティング風景

究の目的が必要とされるはず」と返ってきた。堀下さん達の取り組みにより、ヒューマンファクターに関する概念の重要性は徐々に社内へ広まり、業務研究の方法についての問合せや相談も増えている。

やりがいとは？と聞くと、「私の講義を聞いてそれまでの「ミスをしてはいけない」という認識が「人間はミスをするもの。それをどう防ぐのかを考える」に変わった。目から鱗が落ちた。という声を聞くと、よしっ！と思えます」と微笑む。

「安全やヒューマンファクターに関しては、堀下に聞けば必ず何か役に立つ話が返ってくると思ってもらえるような存在になりたい。そして、研究の成果を出す一方で、現場の役に立っていきたいです。安全を追求するプロとして、より一層の活躍が期待される。



キャリア教育科目  
改編

「今」と「これから」を見据え、  
人生の基盤を築く

● 双方向・参加型で、学生の主体性と意欲を引き出す

神戸学院大学では、2014年度よりキャリア教育の科目内容を改編。それに伴い、2015年度、2016年度で従来の科目名「キャリアを考える 仕事編」を「キャリアのためのビジネス研究」に、「キャリアを考える 人生編」を「女性とキャリア」に、「ビジネスコミュニケーション論」を「キャリアのためのコミュニケーション論」に変更する。女性の選択肢が多様化する社会環境を踏まえ、学生の「今」と「これから」に対する基盤作りをサポートする内容で、人生の様々なステージにおける自らのキャリアについて考える能力を養っていく。改編を進めてきたキャリアセンターの樽本裕見子さんと、「女性とキャリア」の講義を担当する鴨谷香先生に話を伺った。



● キャリア担当教員に聞く

● キャリアアドバイザー  
鴨谷 香 先生

■ 鴨谷 香(かまたに・かおり) 1979年生まれ、2009年よりフリーランスのキャリアアドバイザーとして仕事を始める。モットーは「自分が納得した選択を尊重した支援」「女性が幸せに働き続けられる社会づくり」5大学・短大にて連続講義の講師を担当。就職のキャリア相談、専門講座、話す場の企画、ファシリテーターも多数行っている。公共機関での女性チャレンジ相談員、企業での研修講師実績有。専門は女性のキャリア形成支援。2008年JAIMSにて社会人留学プログラム修了。

鴨谷先生は2013年度の「キャリアを考える 人生編」を一部受け持たれ、2014年度からは「女性とキャリア」の全講義を担当されています。講義内容はどうよに変わりましたか？  
以前は、自分と社会について「知る」ことを重視しましたが、2014年度からは「知り、どう行動するか」まで範囲を広げました。授業では毎回、冒頭で「今日の流れ」と「授業のGOAL」を掲げ、学生と共有。例えば、「女性を取り巻く現状を認識し、自分の、働くについて考え、言語化する」などです。授業の終わりに毎回、今日の自己評価を含めたレポートを提出してもらい、ひとり一人にコメントを記入して返却します。150人分全てに目を通すのはとても時間のかかる作業ですが、「一番力を注いでいます。」「きちんと理解していますね」と伝えれば自信に繋がります。

り、理解が不確実なときは、ピンポイントで指導もできる。専攻の異なる、様々な視点を持った学生が受講していますから、それぞれの状況を把握し、対応することが重要だと考えています。講義の手応えはありますか？  
回を重ねるごとに学生の変化を感じます。例えば毎回、質問する時間を設けていますが、皆なかなか手を挙げて発表しません。学生は「思った事を言うことができない」と苦しみ、レポートにもそう書きます。それが何回か続くと、徐々に手を挙げるようになり、「挙げてみると気を病むほどではなかった」と書くようになる。発表した学生の姿に刺激を受け、「私も頑張りたい」と書く学生も出てきます。  
グループワークもあつと伺いました。最後の授業でプレゼンを行います。12人グループで、各4分。テーマ内

● キャリアセンター課長に聞く



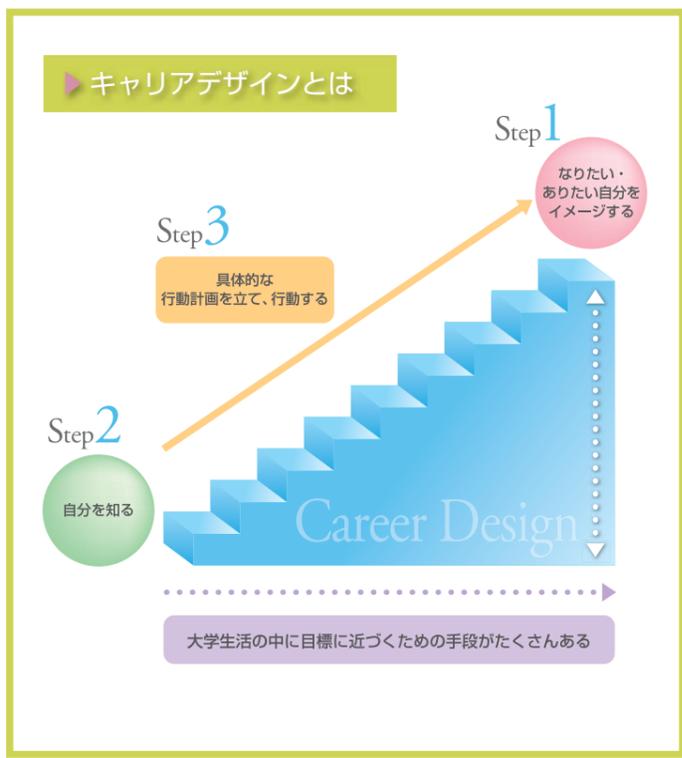
● キャリアセンター課長  
樽本 裕見子 さん

このたびのキャリア教育科目改編の背景をお聞かせ下さい。  
2003年にキャリア教育科目が開講されて以来、その在り方についてはキャリア教育委員会がその都度検討を重ねてきました。私がキャリアセンターに異動したのは2011年。当時の「キャリアを考える」は、教員と社会で活躍する卒業生がリレー形式で講義を担当し、学生に多くの気付きを与えていました。しかし、大教室150人の授業では、講義スタイルが一方向になってしまつという難点もありました。学生も多様化してきており、大教室でも双方向・参加型の講義スタイルに変える必要があると感じ、内容も含めてこのたびの改編に着手しました。  
どのようなコンセプトで改編を？  
予測不可能な現代社会の中で、学生が各自の「今」と「これから」を考えるための基盤を作る。です。そのため科目構築に必要なポイントは4つ。1つ目は、学生が主体的に参加する授業環境を作ること。2つ目は、学生に履修の意味や目的が共有される組み立

てにすること。3つ目は、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、学生が他者と一緒に物事を進めていく場を作ること。4つ目は、学生が社会の諸問題や経済のしくみに対する関心を高めること、です。  
改編後の講義概要を教えてください。  
まず、「キャリアのためのビジネス研究」は、ビジネスの世界でリアルタイムに起こっている出来事を題材に、グループディスカッションを主体とした構成です。「女性とキャリア」は鴨谷先生を講師に迎え、女性の生き方、働き方の過去と現在を学び、自分達がどのように生きていくかを考えます。そして「キャリアのためのコミュニケーション論」は、実践的な学習を通してコミュニケーション・スキルを習得します。3科目とも学びをしっかりと定着させるために、学生が考えを言語化すること、教員と学生、双方向のやりとりを重視しています。  
履修する学生に望むことは？  
今の女性には人生の選択肢が色々あるので、知識や情報を得て、自らの生き方を選択していく能力を身に付けて欲しいですね。そのためにも、低学年のうちから自分の価値観や将来について考えていくとよいのではないのでしょうか。様々な場で頑張っておられる先輩達のお話を聞く機会も設けていますので、よいロールモデルにして欲しいと思います。

容も全て自分達で決めてもらいます。学年もバラバラで知らない人も一緒にグループになります。仕事とはそういうもの。発表することが自信に繋がります。他グループの発表から学ぶ事も多いはず。  
活躍している先輩の話聞く授業の方は、いかがですか？  
昨年度は、一般職の方、営業職を経て秘書になった方、子育てをしながら語学学校で管理職をしている方の3人にお話を伺いました。神戸学院は「人として社会へどう貢献するか」を大切にしている大学なので、自分に出

来る事を探そうと考える学生が多く、就業意欲も高いと感じます。それぞれの道を選択して輝いている身近なロールモデルの影響も大きいですね。  
学生へメッセージをお願いします。  
「女性とキャリア」は、人生の大海原を泳ぐための筋トレ授業(笑)。女性の生き方、働き方についてはもちろん、社会人と共に学べる場や、視野を広げるのに役立つような施設、講座、イベントを紹介するなど、様々な使える情報を発信します。学びを筋肉にし、それぞれにジャンプできるように、必要な情報を選んで存分に活用してください。





# 世界に通用する英語運用能力を養う

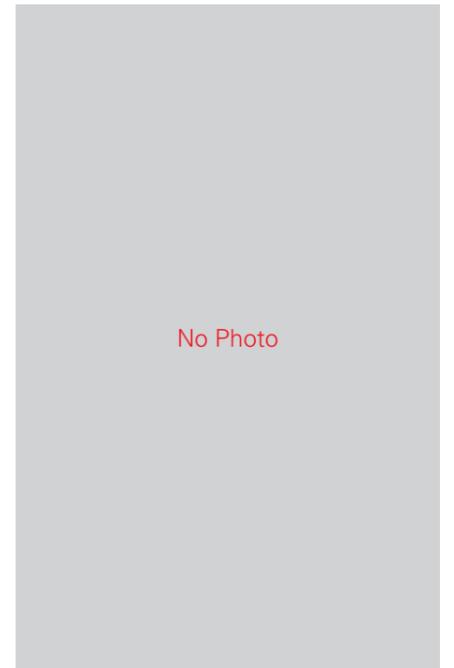
## 高い英語力を持つ学生のための特別クラス

### English Honors Program

神戸女学院大学では、2014年度より、新たに「English Honors Program」の運用を開始している。入学時からすぐに履修がスタートするプログラムで、優れた英語運用能力を持ち、2年生後期から海外の大学の正規コースへ留学をめざす学生を対象として、幅広い教養の土台作りと、英語による発信力の強化を目的とする。所属学科に関係なく、入学時にTOEIC750点以上相当の英語運用能力を持つ学生だけが共通英語科目の代わりに受講できる特別クラスである。授業はアメリカの大学で用いられている読み書きのクラスをアレンジした内容で、2人の英語教員がそれぞれ週1回ずつ、ReadingとWriting、ListeningとSpeakingを担当する。文学、心理、社会、歴史、音楽、科学…と、扱う分野は多岐に渡り、学生達はクリエイティブに読んで書くことをはじめ、自らが「問い」を発見し「答え」を導く、伝えるべき事象を最も効果的に伝える、などのスキルを着実に身に付け留学に望むことができる。現在履修中の江口さん、松並さんに話を聞いた。(学年は取材当時)



▲「English Honors Program」では様々な分野のテキストを使用している



No Photo

●文学部英文学科1年生  
江口さん

履修のきっかけを教えてください。  
江口 私は中学、高等学校と神戸女学院に通い、高校2年生の時に渡航して上海のインターナショナルスクールに入りました。帰国し、次は英語圏に行きたいと思っていたところ、留学に向けて少人数制で英語力を強化して貰えるプログラムがあることを知り、神戸女学院大学への入学を志望しました。  
松並 私は4月に受講条件をクリアしていることを教えてもらい、興味を持ちました。小・中・高と、英語に力を入れている学校に通っていたので、それを深められるなと思い、履修を決めました。  
授業はいかがですか？  
江口 毎回、課題としてレポート提出があつて、それが大変です。「The Universe of English」という東京大学教養学部の英語テキストで勉強した時は、錯覚、細胞、進化についてなど日本語でも難



▲入念に添削されて真っ赤になる課題のレポート

松並 レポートは本当に大変でした。ほかに英語のクイズやゲームをしたり、世界の様々な分野の人達がアイデアのプレゼンテーションを行う「TED」の内容を要約したりする授業もあります。海外へ日本文化を伝える企画では、皆で鮭の塩焼きや茶わん蒸しなどの日本食を作つてその動画をYouTubeで配信したんです。  
後期からは、プレゼンの課題もあると伺いました。  
松並 はい。「The Japanese Mind」というテキストから、男女関係、根回し、武士道…と、日本人独特の考え方などについてテーマが与えられます。自分の言葉で発表をまとめなければならず、新しい発想も必要とされます。でも、他の人のプレゼンを見ると、同じテーマでも切り口が違うし、動画や写真、音楽を使うなど、見せ方も全然違うので楽しいです。

江口 オリジナル商品作りを想定したプレゼンもあり、英語で企画書を書いて発表しました。私の考えた商品は、付けて剥がしたらメイクが全てで完成している「メイクマスキングシート」(笑)。英語力だけでなくテーマに沿った他分野の知識も必要とされるので、関連する本を探して表現を引用したり、ネットで調べたりして勉強しています。  
日本に対する発見もありそうですね。  
松並 はい。日本人は外国人からどう思われているのか、「The Japanese Mind」から気付かされる点があります。例えば「甘え」について。日本人は集団意識が強く、沈黙したり、意見を言わなかったりしがち。それらは外国人に「甘え」と捉えられるというのは発見でした。  
江口 ただ、書かれている日本人像には「そうでもないな」と思う部分もあるトピックにおいてテキストの内容を鵜呑みにしてレポートにまとめたところ、先生に「テキストに書かれていることは、全てが事実というわけではないよ」と指摘されました。自分の意見を持つことやクリティカルシンキング―批判的な目で見ること常にも求められています。

学びの手応えはありますか？  
松並 私が所属している総合文化学科は1年生からゼミがあり、今履修している社会学のゼミでもレポート提出があります。だから、レポートを作成する力はとても鍛えられました。所属学科の科目に加えてこのプログラムを履修することで、その内容から社会学に関することを学べるし、逆に社会学からの応用もできる。双方の勉強がリンクすることが多いので、すごくためになっていると感じます。  
江口 毎回の課題が確実にレベルアップに繋がっている実感がありません。「TOEICも900点台になりましたので、課題の大きさよりも喜びの方が大きい。厳しさは先生の愛情だな」(笑)。  
松並 私もそう思います。「TOEICの結果が出る2週間程前にレポートを提出した際、先生に「これならTOEICは800点超えてるだろう」と言われまして。結果が出たら本当に800点を超えていて、「頑張っていることを先生がきちんと見てくれてる！」と感動しました。  
今後の目標を聞かせてください。

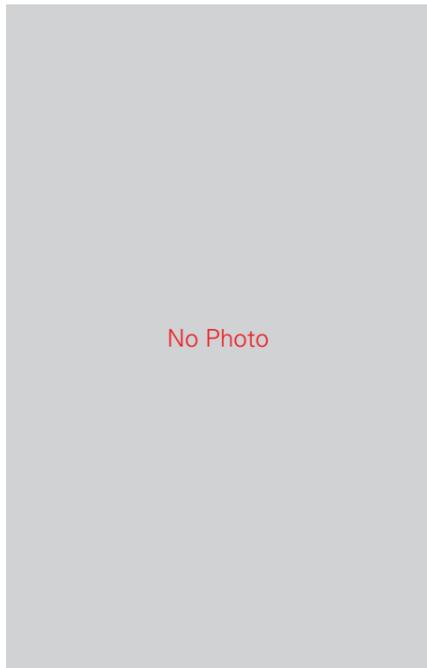
江口 この9月からイギリスの大学へ派遣留学が決まったので、向こうでもしっかりプレゼンできるように、発想力などに磨きをかけたかったです。日本のことを海外へ伝えたいので、特に「The Japanese Mind」で学んだことはもう一度テキストを振り返っておきたいと思っています。  
松並 私は大学院に進んで勉強を続けたいと考えています。外国の文献を読む機会も増えると思うので、英語力をさらに高めたいと思います。



▲日本の文化・概念を英語で紹介する「The Japanese Mind」(左)



●文学部総合文化学科1年生  
松並さん



No Photo

●文学部総合文化学科1年生  
松並さん

# Study Abroad

## 米英・新規協定校から初の留学生

◎授業・生活ともに日本人バディがサポート



BGSU  
Bowling Green State University



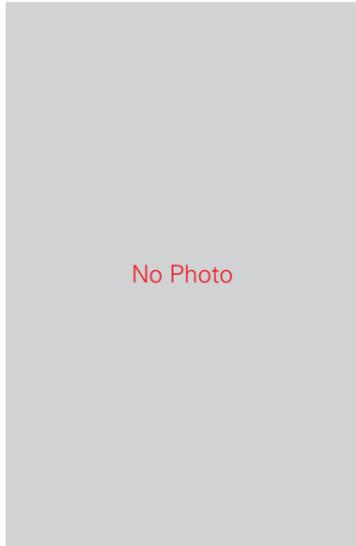
UEA  
University of East Anglia

新規協定校のボーリンググリーン大学(米)とイーストアングリア大学(英)から、初の派遣留学生を受け入れた。2014年9月から2015年7月まで文学部に所属。留学生が増えることで本学がますますグローバル化していくことが期待される。これから何を学びたいのか二人の留学生に聞いた。



日本語禁止の「English Zone」で

日本語表現や日本の文化を学び  
通訳の仕事をめざす



No Photo

●イーストアングリア大学(英)  
ルシアさん

子どものころから日本の漫画が好きでした。大学で日本語を専攻し、本格的に学ぼうと留学を決意。神戸女学院大を選んだのは、先生に学習環境のよさを勧められたからです。実際に留学してみると、日本文学や文化を知るコース、現代社会について英語で学ぶプログラムなど、日本人学生向けの授業に留学生の私も勉強しやすいものがあり、モチベーションが上がりました。日本の歴史や、日本語の言語的な特徴

について学べる科目に興味があるので、4月から履修したいと考えています。イギリスで2年間日本語を勉強しましたが、来日した当初は会話らしい会話も話せずにいました。そんな私が日本語ペラペラになり、楽しく毎日をごせているのも、たくさんの方がバディとして支えてくれておかげ。ホームワークもチェックしてもらるので、安心して授業に専念できます。同じバディでも、イギリスの大学では生活支

## 松岡享子氏に 名誉学位記を授与



神戸女学院大学が2010年に立ち上げた「絵本翻訳コンクール」は、2014年度には全国266の高校から1689点の応募を受けるまでに成長を遂げた。当初より同コンクールの審査員を務める松岡享子氏は、本学の卒業生であり、公益財団法人東京子ども図書館理事長、絵本作家・絵本翻訳家として幅広く活躍されている。3月19日、本学は松岡氏のご業績の質的な高さと豊かさ、本学を含む幅広い社会貢献へのご功績を称え、名誉学位・教育文化博士の称号を授与した。



▲ 飯前学長から名誉学位記を授与される松岡享子氏(右)

一週間前、私は満80歳の誕生日を迎えました。翌日には東京子ども図書館40周年記念イベントもあり、このところ来し方を振り返る機会が多くありました。私は児童書の翻訳や執筆を続けながら、私立の児童図書館の設立と運営に携わって参りました。また、ユネスコのアジア共同出版事業に関わったり、国際アンデルセン賞の審査員を務めたりもしました。そして、いつも子ども達とお話を語ってきました。こうして今日まで仕事を続けてこれたのは、それを可能にする条件が用意されていたからで、それは私に与えられた無償の賜物だと感じております。それに比べると、私のしてきた仕事はまだバランスがとれているとは思っておりません。

神戸女学院で教育を受けたことも恩恵のひとつです。図書館に児童文学の研究書があったことが後の実践へとつながりましたし、キャンパスの美しさが無意識のうちに私の内部に培ってくれたものは非常に大きいと感じています。

自分の与り知らぬところで備えられていた恵みに感謝し、人生の終わりには、自分の仕事が少しでもそれにバランスのとれるものになるよう努めて参りたいと願っています。

■松岡享子(まつおか・きょうこ)  
神戸女学院大学文学部英文学科、慶應義塾大学文学部図書館学科卒業。米国ウェスタン・ミシガン大学大学院修士課程。ボルティモア市の公共図書館、大阪市立中央図書館勤務等を経て、1974年(公財)東京子ども図書館を設立し、児童書の普及と啓蒙活動に携わる。絵本「とちやんはどこ」など著書多数。

一昨年にイギリスへ留学した際、現地のバディのお世話になりました。今度は自分が日本に来る留学生をサポートしてあげたいと思ったことがバディ応募の動機です。人見知りしていたルシアさんの日本語がだんだん上手になり、周りや打ち解けていく様子を見ると、その成長をお手伝いできたのだとうれしいです。

●文学部英文学科3年生  
樋口さん  
(学年は取材当時)



援はないので、神戸女学院の皆さんには本当に感謝しています。お互いに母国語を教え合ったり、もっとスムーズなコミュニケーションが図れるようになりますね。

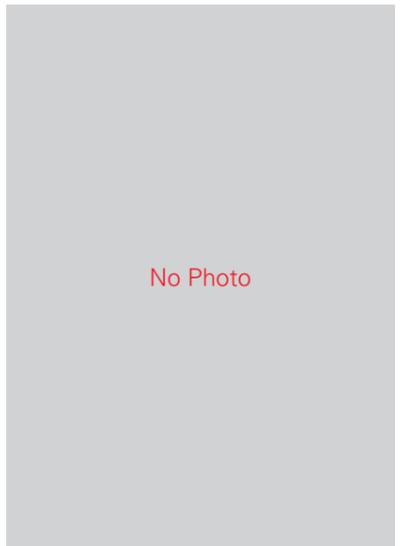
留学生バディの声

日本で翻訳家として働きたいという夢があり、派遣留学に応募。恩師が神戸女学院大出身で、学生の語学力のレベルが高いと聞いていました。「日本語」を学ぶ授業の他、国際ビジネスや国際関係についても学んでいます。日本人学生と一緒に勉強する授業は特に刺激が多いですね。グループワークで資料を作成するとき、日本人は可愛い動物を使うなど比喩的表現を好むのですが、アメリカではキャラクターを使わずストレートな表現をします。これはおもしろい発見でした。今後はさらに日本語力のレベルアップを図り、専門で学べる範囲を広げたいです。日本に到着したときはバディに空港まで迎えられ、スーパーを教してもらったり、毎日一緒にお昼ご飯を食べたりと、いろいろサポートされています。地元・兵庫県西宮市のイベントでお神輿をかっただこと、温泉に行ったことなどたくさん思い出ができました。

ケイトリンさんとは国籍の違いを超えたいい友人です。日本語禁止のEnglish Zoneという部屋で留学生と一緒に活動することに慣れていたので、お互いの母国語を教え合ったり、京都や大阪に遊びに行き対等な関係を築いています。まちを案内する中で、東北出身の私も日本文化の魅力を発見でき、楽しみが広がりますね。

●文学部英文学科2年生  
藤本さん  
(学年は取材当時)

アメリカに帰りたくなくらい楽しい留学生活で、毎日が充実しています。



No Photo

●ボーリンググリーン大学(米)  
ケイトリンさん



## 講演会・公開講座・コンサートなど

### 春季公開講座2015

- **こどもとつながる**  
第1回：5月30日に終了しました  
第2回：「[内なる子ども(インナーチャイルド)]は知っている」  
日時：6月13日(土)10:00~11:30  
場所：神戸女学院大学文学部1号館21号教室  
講師：國吉知子(人間科学部心理・行動科学科 教授)  
第3回：「子育て支援と子育てひろば——社会学の立場から」  
日時：6月20日(土)10:00~11:30  
場所：神戸女学院大学文学部1号館21号教室  
講師：戸江哲理(文学部総合文化学科 専任講師)

※小学生以下のご入場はご遠慮ください。  
問い合わせ：広報室 TEL 0798-51-8585

### 講演会

- Prof. Dale BauerとProf. Gordon Hutnerの講演会  
日時：6月24日(水)  
①16:40~17:50 ②18:00~19:30  
場所：神戸女学院大学エミリー・ブラウン記念館2階202号教室  
講師：①イリノイ大学英文学教授 Dale Bauer 氏  
「19世紀アメリカ女性作家たちの連載小説を再発見する——E.D.E.N サウスワース、アン・スティープンス、ローラ・ジーン・リビーの業績」※英語による講演(英日通訳あり)  
②イリノイ大学英文学教授・American Literary History編集長 Gordon Hutner 氏  
「21世紀のアメリカ小説小史」※英語による講演・通訳なし  
問い合わせ：takamura@mail.kobe-c.ac.jp

### 音楽学部演奏会・公演

- **ベガにオーケストラがやってきた! Vol.6(サマーコンサート)**  
日時：6月30日(火)18:30開演  
場所：宝塚ベガ・ホール  
参加費用：前売り500円 当日600円
- **オータムコンサート**  
日時：10月8日(木)18:30開演予定  
場所：宝塚ベガ・ホール
- **音の響宴**  
日時：11月12日(木)19:00開演予定  
場所：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール  
参加費用：1,000円
- **定期演奏会**  
日時：11月29日(日)開演時間未定  
場所：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール  
参加費用：1,000円  
問い合わせ：音楽学部事務局 TEL 0798-51-8550  
FAX 0798-51-8551 E-mail music@mail.kobe-c.ac.jp

### 音楽学部演奏会・レクチャー&特別公開レッスン

- Kobe College & Mozarteum フレンドシップコンサート(金曜日公開プログラム)  
日時：10月30日(金)10:35~11:25  
場所：神戸女学院講堂  
出演：Rolf Plagge教授、田中修二、佐々由佳里
- Rolf Plagge レクチャー&ピアノ特別公開レッスン  
(音楽大学受験を目指す中学生、高校生からレッスン受講生を公募中)  
日時：10月31日(土)14:00~18:00  
場所：神戸女学院大学音楽館ホール
- Kobe College & Mozarteum 学生交流コンサート  
日時：11月2日(月)15:00~17:00  
場所：神戸女学院大学音楽館ホール  
出演：Anastasia Yasko(モーツァルテウム音楽大学学生)、神戸女学院大学学生  
問い合わせ：音楽学部事務局 TEL 0798-51-8550

### アウトリーチ・センターイベント

- **子どものための七タコンサート 音楽のお弁当箱〜輝く世界へ☆レッツゴー!〜**  
日時：7月4日(土)  
第1部 11:00開演(10:30開場)年齢制限なし  
第2部 15:00開演(14:30開場)小学生以上対象  
場所：神戸女学院講堂  
出演：「音楽によるアウトリーチ」履修生  
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円 申込み要  
問い合わせ：音楽学部アウトリーチ・センター  
TEL 0798-51-8584 E-mail concertfch@mail.kobe-c.ac.jp

### 心理相談室ウィーク

- **無料相談(要予約)**  
日時：7月30日(木)~8月5日(水)10:00~17:00(土日除く)  
場所：神戸女学院大学心理相談室  
申込期間：7月6日(月)~7月17日(金)10:00~18:00(土日除く)  
※在学中の方及びその保護者の方のお申し込みは受け付けることができませんのでご了承ください。
- **講演会(予約不要)**  
「性格について考える〜精神分析的観点から〜」  
日時：7月31日(金)13:00~15:00  
場所：神戸女学院大学エミリー・ブラウン記念館2階201室  
講師：吾妻 壮(神戸女学院大学大学院 教授)  
問い合わせ：神戸女学院大学大学院心理相談室 TEL 0798-51-8554

### 金曜日公開プログラム

- **オルガンコンサート**  
日時：6月12日(金)10:35~11:25  
場所：神戸女学院講堂  
出演：片桐聖子、前田直子
- **ピアノリサイタル**  
日時：6月19日(金)10:35~11:25  
場所：神戸女学院講堂  
出演：ボリス・ベクテレフ(Boris Bekhterev)
- **研究所主催演奏会**  
日時：6月26日(金)10:35~11:25  
場所：神戸女学院講堂  
出演：Luck Xavier(フルート)、辻井淳(ヴァイオリン)、中出悦子(チェンバロ)、成川昭代(チェロ)
- **卒業生による演奏会**  
日時：7月10日(金)10:35~11:25  
場所：神戸女学院講堂  
出演：未定
- **礼拝**  
日時：7月24日(金)10:35~11:25  
場所：神戸女学院ソールチャペル  
説教：学院チャレン 飯 謙  
問い合わせ：チャレン室 TEL 0798-51-8502

## 高校生等参加イベント

- **オープンキャンパス**  
日時：6月21日(日)、7月26日(日)、8月2日(日)、9月13日(日)  
10:00~15:00  
内容：模擬講義、キャンパスツアー、各種相談コーナー他  
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543
- **第6回絵本翻訳コンクール**  
参加申込締切：8月5日(水)  
※申込後、課題図書をお送りします。詳しくは本学ホームページをご覧ください。  
問い合わせ：広報室 TEL 0798-51-8585
- **音楽学部夏期講習会(要申込み、詳細は音楽学部ホームページをご確認ください)**  
日時：器楽、声楽、ミュージック・クリエイション専攻 7月30日(木)~8月2日(日)  
(※受講資格：中学生・高校生)  
舞踊専攻 7月31日(金)、8月1日(土)  
(※受講資格：中学3年生以上、高校3年生優先30名まで)  
場所：神戸女学院大学音楽学部  
問い合わせ・申し込み：音楽学部事務局 TEL 0798-51-8550

## めぐみ会主催行事

### めぐみ公開講座

- **2015めぐみ講演会**  
「憲法9条、日米安保条約、国連憲章——戦後日本の安全保障に関する法的枠組み」  
日時：6月22日(月)13:30~15:00  
講師：弁護士 佐藤 容子 氏  
会場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
「狂言〜日本の笑い」と和らい〜  
日時：10月31日(土)13:30~15:00  
講師：狂言師 茂山 逸平 氏  
会場：神戸女学院講堂  
受講料：一般1,500円 学生1,000円 ※要予約 (HPも可)
- **2015アートセミナー**  
「作家[水上勉]へ、二つの立場からの考察——「子」の立場から、「父」の立場から——(全2回)」  
第1回：9月2日(水)11:00~12:30  
「雁の寺」誕生と母との別れ  
第2回 9月9日(水)11:00~12:30  
息子との再会、語りだされた無名時代の水上勉  
講師：園田学園女子大学名誉教授 吉村 稯 氏  
会場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
「知られざる不思議の国 ベルギー—美術と文化の魅力—ブリュッセルからマグリットまで」  
日時：10月1日(木)11:00~12:30  
講師：大阪新美術館建設準備室主任学芸員 植木 啓子 氏  
会場：神戸女学院めぐみ会館  
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約 (HPも可)  
問い合わせ・申し込み：公益社団法人神戸女学院めぐみ会  
TEL 0798-51-3545 URL：http://www.megumikai.or.jp/

### ●「Vistas」アンケートのお願い●

神戸女学院大学広報誌「Vistas」をご覧いただきありがとうございました。  
P.17~18にアンケートハガキがございますので、皆様からのご意見・ご要望をお寄せください。

—※行事について特に記述のないものは、基本的に申し込み不要・無料です。—